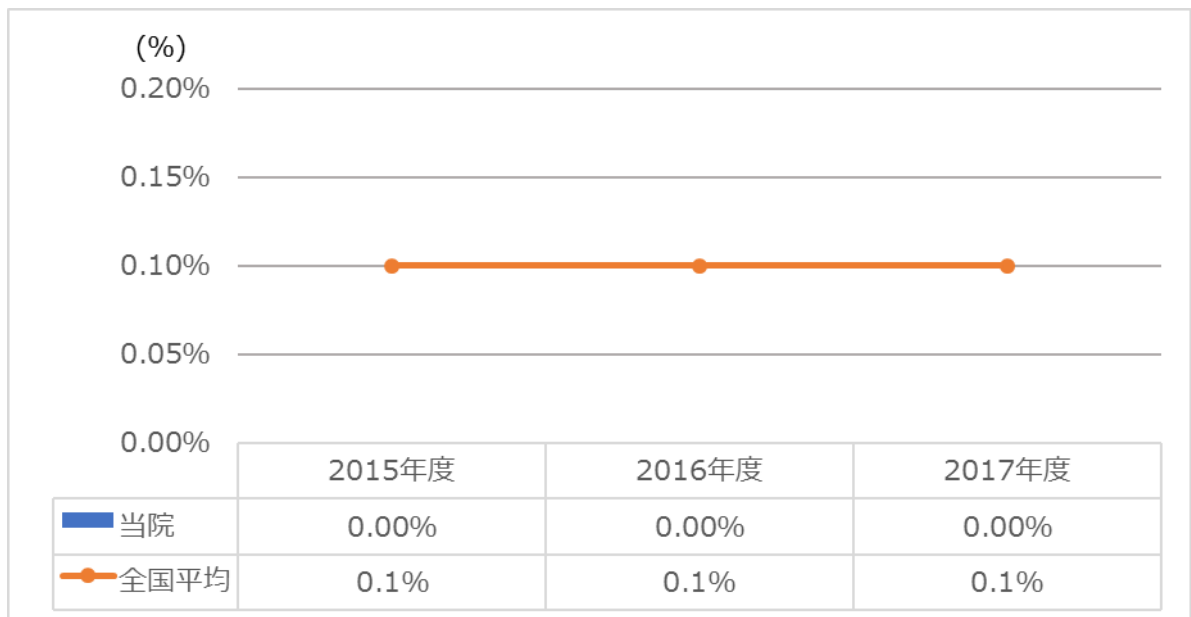


指標 7 経皮的冠動脈形成術（PCI）を受けた後、同日あるいは翌日までに冠動脈バイパス術（CABG）を受けた割合



<定義>

分子	: 分母のうち、同日あるいは翌日までに CABG を受けた件数
分母	: 18 歳以上の PTCA 件数
期間	: 2015 年度～2017 年度（1 年毎に集計）
対象	: 上記期間の退院患者
値の解釈	: 低い方が望ましい

<解説>

冠動脈形成術が成功せず心行動態が術前よりかえって悪化した場合、緊急的に冠動脈バイパス術を行う必要が生じる場合があります。全国平均は0.1%の頻度で発生しますが、当院ではそのような事例は今まで発生しておらず0%です。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIPにおける計測結果）